

令和元年8月27日現在

機関番号：17102

研究種目：基盤研究(A)（一般）

研究期間：2014～2018

課題番号：26244010

研究課題名（和文）作品誌の観点による大徳寺伝来五百羅漢図の総合的研究

研究課題名（英文）The Five Hundred Lohan Painting of Daitokuji from the Viewpoint of Social Life of an Art Object

研究代表者

井手 誠之輔（ide, seinosuke）

九州大学・人文科学研究院・教授

研究者番号：30168330

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 17,900,000円

研究成果の概要（和文）：南宋仏画の基準作となる大徳寺本は、今日に至る伝来において、異なる時空のコンテクスト間を越境移動してきた。その履歴を起点に展開する事象は、仏画制作と地域社会、外来美術の受容、美術の制度と古美術、東西美術の比較考察という今日的な美術史学の課題を網羅するだけでなく、仏教史や歴史学、宗教学、文化人類学などのさまざまな人文学の領域に対しても、雄弁な視覚資料を提供している。本研究では、モノの社会生活や越境移動に注目する作品誌の観点から大徳寺本の歴史的役割を検証し、一作品がローカルであると同時にグローバルな言説に対しても開かれた存在であることを解明し、文物研究に対する新しい人文学的アプローチを提示した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

1990年代からの美術史学が課題としてきた近代の制度としての自国美術史を如何に克服していくのかという問題に対して、近年、注目されている作品誌の観点から、一つの作品についての実証的な事例を具体的に検証し、大徳寺本がローカルであると同時にグローバルな言説にも開かれた対象であることを解明したもので、今日的な作品研究のモデルとなる。今後は、作品誌的観点を発展させ、より広範な研究対象を網羅できる研究手法として、越境文物学という学際研究の可能性を検討している。なお、研究成果は、国際シンポジウムの報告書として出版し、また三カ国語によるウェブサイトをとってその概要が広く国内外に周知されている。

研究成果の概要（英文）：The Daitokuji 500 Luohans has circulated between and transcended a number of disparate contexts across time and space until the present. Because of its unique biography, the 500 Luohans naturally gives rise to many art historical themes, including the relationship of Buddhist painting production to local society, the reception of foreign art, institutionalization of art in relation to antiquities, and comparative art history. Furthermore, it offers eloquent visual testimony to issues of concern to the other humanities fields, including Buddhology, history, religious studies, and cultural anthropology. This study explored the historical role of the Daitokuji 500 Luohans from the perspective of an art historical biography attentive to the social life of things and the consequences of transregional circulation. It offered new humanistic approaches to the study of art objects by demonstrating the ways in which a single artwork could be responsive to both local and global contingencies.

研究分野：美術史

キーワード：大徳寺伝来五百羅漢図 作品誌 フェノロサ バーナード・ベレンソン 東銭湖 明州 水陸齋 浚渫

## 様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19、CK - 19 (共通)

### 1. 研究開始当初の背景

大徳寺伝来の五百羅漢図は、2009年、奈良国立博物館で開催された『聖地寧波展』における公開を契機として、制作当初の銘文の解読と制作における地域社会との関係性について解明が進み、当時の仏教界の動向や歴史認識をしめす視覚情報の宝庫として、大いに注目を集める存在であった。また大徳寺本は、今日に至る800年に及ぶ伝来の過程で、さまざまなコンテクストの間を移動し、日本では長らく唐絵制作の規範として機能し、近代になると欧米世界がはじめて眼にした偉大な中国絵画として、大いなる驚嘆をもって迎えられるなど、近年、新たな研究手法として注目されている作品誌やモノの社会史という研究観点からも魅力的な研究対象となっていた。

### 2. 研究の目的

本研究は、南宋の100幅で構成される大徳寺伝来の五百羅漢図について、作品誌の観点から分析する。作品誌とは、作品の履歴の全てを考察し、多方面から解明する手法である。本作を起点とする事象は、仏画制作と地域社会、外来美術の受容、権力者の仏事と仏画の機能、美術の制度と古美術、東西美術の比較考察等と多方面に展開し、美術史学の諸課題を網羅する。作品誌の観点から、大徳寺本がローカルであると同時にグローバルな言説にも開かれた対象であることを解明し、今日的な作品研究のモデルを提示する。

### 3. 研究の方法

本研究では、大徳寺本がさまざまなコンテクストの間を移動する中で、じつに南宋絵画史から日本の中世絵画史、近世絵画史、近代絵画史、さらに欧米の西洋絵画史という多方面にわたる研究領域において、変わることなく規範的な作例として機能し、さまざまに受容されてきた履歴をもつ点に注目し、故郷での誕生、日本への渡海、唐絵としての規範性、宝物から美術へ、戦後の美術史学という五つの画期を定め、大徳寺本の規範としての機能と受容の様相を検証し、作品誌をめぐる調査とともに開かれた研究会を開催して議論した。最終年度には、九州大学文系箱崎キャンパスを会場として、国際シンポジウムを開催し、2日間で300名を超える参加者があった。日・英・中の三カ国語による発表要旨集とウェブサイトを作成・構築したほか、日本語による報告書を年度末に刊行した。

### 4. 研究成果

故郷での誕生については、大徳寺本における100幅の全容において未解明の図像の典拠を解明するとともに、南宋絵画史における従来の単線的な時系列にともなう様式発展の概念を、宮廷を中心とする院体画、禅林を中心とする水墨画、教学仏教寺院における着色仏画という複眼的な視点から再検討し、相互の連関作用として新たな時代相の解明を行った。日本への渡海では、日本における宋代仏画の受容という観点から、とくに明兆が大徳寺本を参照して制作した50幅本のヴァリエーションについて相互比較を行い、大徳寺本の宋画としての規範性と日本における受容の特性を明らかにした。唐絵としての規範性では、室町時代の唐絵鑑賞の時代に、宋代仏画が如何に機能したのかという観点から、当時の権力者の滅罪儀礼と大徳寺本との関係性を考察した。の宝物から美術へでは、フェノロサがアメリカ東海岸で開催した展覧会に焦点をあて、美術の本場で大徳寺本が如何に受容され、中国絵画及び東洋画に対する如何なる認識を醸成したのかを検討した。その宝物流出という事件は、大徳寺本の旧国宝指定を促進し、また西洋での評価は、ヨーロッパとアメリカにおいて、明兆本と大徳寺本の理解の差違や混乱から若干のズレがあったことを確認した。戦後の美術史学では、1950年代における方聞氏の本格的な研究以降、中国絵画史の主な研究動向がメインストリームの検証へと転換し、ローカルな地域や着色仏画の研究が盲点となって周縁化されたことを確認した。総じて、作品誌の観点から、大徳寺本がローカルであると同時にグローバルな言説にも開かれた対象であることを解明し、今日的な作品研究のモデルを提示することができた。将来的には、作品誌的観点を発展させ、より広範な研究対象を網羅できる学際的研究手法として、越境文物学の可能性を検討した。

### 5. 主な発表論文等

[雑誌論文](計21件)

方聞, 大徳寺五百羅漢図にみる聖と俗, 徹底討論・大徳寺伝来五百羅漢図の作品誌 地域社会からグローバル世界へ, 2019, 389-418

李玉珉, 大理国張勝温「梵像図巻」羅漢図の研究, 徹底討論・大徳寺伝来五百羅漢図の作品誌 地域社会からグローバル世界へ, 2019, 419-460

藤岡穰, 杭州烟霞洞と飛来峰の羅漢像について, 徹底討論・大徳寺伝来五百羅漢図の作品誌 地域社会からグローバル世界へ, 2019, 461-488

井手誠之輔, 総論 高麗仏画研究の現況と課題, アジア仏教美術史論集 東アジア 朝鮮半島, 2018, 47-72

井手誠之輔, 高麗の阿弥陀八大菩薩像, アジア仏教美術史論集 東アジア 朝鮮半島, 2018, 477-508

増記隆介, 高麗仏画における密教像 二つの変化観音像を中心に, アジア仏教美術史論

- 集 東アジア 朝鮮半島, 2018, 449-476
- 井手誠之輔, 高麗仏画から見る祈りの文化, 特別展図録『高麗青磁 ヒスイのきらめき』, 2018, 258-263
- 井手誠之輔, 蒙元和東亞的佛教繪畫, 美術史研究集刊, 44, 2018, 1-34
- 谷口耕生, 南都絵所の形成 尊智流を中心に, 研究発表と座談会 平安時代後期を中心とした絵師の工房をめぐる諸問題, 44, 2018, 18-25
- 増記隆介, 齋然が見た唐宋絵画 平安後期絵画史の前提として, グレートブッダシンポジウム報告書『日宋交流期の東大寺』, 15, 2017, 53-67
- 塚本麿充, 道宣律師像・元照律師像の絵画表現とその制作集団, 國華, 1458, 2017, 27-36
- 板倉聖哲, 「出山釈迦」と「草座釈迦」 釈迦図像をめぐる二三の問題, 法華文化研究, 43, 2017, 69-85
- 北澤菜月, 作品紹介 新所蔵の最勝曼荼羅について 室町時代興福寺の祈雨本尊, 鹿園雑集, 17/18, 2017, 39-49
- 増記隆介, 十世紀の画師たち 東アジア絵画史から見た「和様化」の諸相, 美術研究, 420, 4-30
- 板倉聖哲, 梁楷『出山釈迦図』(東京国立博物館)をめぐる諸問題, 佛教藝術, 344, 2015, 9-31
- 谷口耕生, 鎌倉時代やまと絵の形成 尊智・円伊・高階隆兼, 日本美術全集 第8巻 鎌倉・南北朝時代 中世絵巻と肖像画, 8, 2015, 187-196
- 北澤菜月, 林庭珪と周季常、二人の画家とその傾向について, 大徳寺伝来五百羅漢図, 2014, 284-289
- 谷口耕生, 木村徳応筆五百羅漢図 失われた大徳寺本六幅をめぐって, 大徳寺伝来五百羅漢図, 2014, 290-294
- 井手誠之輔, 大徳寺伝来五百羅漢図の成立背景(承前), 大徳寺伝来五百羅漢図, 2014, 268-283
- 谷口耕生, 清涼寺釈迦如来立像旧厨子扉絵考 金光明懺法諸天図の一遺例, 仏教美術論集, 5 機能論, 2014, 372-395
- ②1 Seinosukue Ide, "Standing on the Fringes: An Interactive Perspective on Sohon Buddhist Paintings in Japanese Collections", *Between East and West: Reproduction in Art, Proceeding if the 2013 CIHA Colloquium in Naruto, Japan*, IRSA, 2014, 237-253
- [学会発表](計 43 件)
- 畑靖紀, 夏珪の瀟湘八景図と室町水墨画 「東山御物」の規範性をめぐる諸問題, 美術史学会西支部例会, 2019
- 増記隆介, 「五百羅漢図」の母胎としての呉越絵画 日本伝来の白描図像を中心に, 徹底討論・大徳寺伝来五百羅漢図の作品誌 地域社会からグローバル世界へ, 2018
- Yunru Chen, *Landscape in the Dali Scroll of Buddhist Images: Forms of Expression and Issues of Stylistic Origin*, 徹底討論・大徳寺伝来五百羅漢図の作品誌 地域社会からグローバル世界へ, 2018
- Eugene Wang, *Why Do Demons Replace Noble Ladies in Ironing Silk?*, 徹底討論・大徳寺伝来五百羅漢図の作品誌 地域社会からグローバル世界へ, 2018
- 梅沢恵, 五百羅漢図に描かれる仏伝を暗示する図像 仏涅槃・龍女成仏を中心に, 徹底討論・大徳寺伝来五百羅漢図の作品誌 地域社会からグローバル世界へ, 2018
- Richard Vinograd, *Gender, Class and Race in the Daitokuji 500 Luohans Portraits*, 徹底討論・大徳寺伝来五百羅漢図の作品誌 地域社会からグローバル世界へ, 2018
- 西谷功, 大徳寺伝来「五百羅漢図」から復元される僧院生活, 徹底討論・大徳寺伝来五百羅漢図の作品誌 地域社会からグローバル世界へ, 2018
- Phillip E. Bloom, 'Gathering like Clouds': *Divine Descents and the Arhat Offering Ritual*, 徹底討論・大徳寺伝来五百羅漢図の作品誌 地域社会からグローバル世界へ, 2018
- Shou-Chien Shih, *Daitokuji 500 Luohans Painting and the Modern Study of Chinese Art History*, 徹底討論・大徳寺伝来五百羅漢図の作品誌 地域社会からグローバル世界へ, 2018
- Ching-Ling Wang, *Two Traditions of Arhat-Painting: Jin Dashou's 16 Arhats & Daitokuji 500 Arhats*, 徹底討論・大徳寺伝来五百羅漢図の作品誌 地域社会からグローバル世界へ, 2018
- Yukio Lippit, *Ernest Fenollosa and the 500 Luohans*, 徹底討論・大徳寺伝来五百羅漢図の作品誌 地域社会からグローバル世界へ, 2018
- 塚本麿充, 近代・「中国」絵画研究精神史のなかの大徳寺「五百羅漢図」, 徹底討論・大徳寺伝来五百羅漢図の作品誌 地域社会からグローバル世界へ, 2018
- Minna Torma, *Enchanted by Lohans Expanded: Western Scholars Encountering Chinese Religious Paintings*, 徹底討論・大徳寺伝来五百羅漢図の作品誌 地域社会からグローバル世界へ, 2018
- 板倉聖哲, 高麗時代の絵画と中国, 明治安田生命第760回仏教文化講座, 2018
- 井手誠之輔, 作品誌の観点から見た大徳寺五百羅漢図の諸相, 徹底討論・大徳寺伝来五百羅

漢図の作品誌 地域社会からグローバル世界へ , 2018

井手誠之輔, 高麗仏画と宋元仏画の関係性 阿弥陀画像を中心に , 高麗建国の1100周年記念「大高麗」展記念講演, 2018

北澤菜月, 浄土教の造形世界, Harvard International Symposium: Medieval Japanese Buddhist Practices and Their Visual Art Expressions, 2018

Ryusuke Masuki, Underlying the "Vision" of Heian Buddhist painting, Movement and Materiality in Japanese Art, Mary Griggs Burke Center for Japanese Art in Columbia University, 2018

北澤菜月, 源信と浄土信仰の美術 展覧会紹介 , 第46回奈良国立博物館夏期講座, 2018

塚本麿充, 日本入宋僧俊奘と圓爾: 佛教文物與南宋社會, 兩宋書畫傳習與研究國際學術論壇, 2017

②① 谷口耕生, 中世日本における玄奘三蔵像の受容と展開, 龍谷大学世界仏教文化研究センターアジア仏教文化研究センター学術講演会, 2017

②② Itakura Masaaki, Chinese Landscape Painting and Goryeo Buddhist Imagery, Goryeo Buddhist Painting: A Closer Look, 2017

②③ 井手誠之輔, 高麗仏画の領分 中国・日本の仏画との比較から見えてくる世界 , 特別展『高麗仏画 香りたつ装飾美』講演会, 2017

②④ 井手誠之輔, 作品誌の観点と大徳寺伝来五百羅漢図, シンポジウム「東洋学・アジア研究の新たな振興をめざして」PART IV 新資料が拓くアジア研究 , 2016

②⑤ 増記隆介, 吳越国の絵画と日本, 大和文華館「吳越国 西湖が育んだ文化の精粋」展記念講演会, 2016

②⑥ 増記隆介, 齋然が見た唐宋絵画 平安後期絵画史の前提として , グレートブッダシンポジウム「日宋交流期の東大寺 齋然上人一千年大遠忌にちなんで」, 2016

②⑦ 北澤菜月, 日本における兜率天曼荼羅 南都周辺の作例を中心に, 世界仏教文化研究センターアジア仏教文化研究センター学術講演会, 2016

②⑧ 井手誠之輔, 蒙元時期的東亞佛畫交流, 蒙元與中亞、東亞之藝術交流學術工作坊, 2016

②⑨ 井手誠之輔, 日本伝来の南宋仏画と中国, 国際シンポジウム「中世の福岡平野から見る東アジア 首羅山と造形遺品を中心に」, 2016

③⑩ 塚本麿充, 矢代幸雄と1930-45年代の中国美術研究, 研究会:美術史家矢代幸雄における西洋と東洋, 2016

③⑪ 谷口耕生, 『玄奘三蔵絵』と中世南都の仏教世界観, 玄奘フォーラム・パネル4『『玄奘三蔵絵』の諸問題』, 2015

③⑫ 塚本麿充, 禅月羅漢図の時空 応夢羅漢図の伝播と変容 , 空間史学研究会, 2015

③⑬ 塚本麿充, 中国美術史における皇帝と士大夫の表象 可視と不可視のはざまから , 第67回美術史学会 全国大会シンポジウム「造形と見えないもの 様式論のために イコノクラスムを超えて」, 2015

③⑭ 井手誠之輔, 細密の巨幅 鏡神社所蔵水月観音像における造形とその理念 , EXQUISITE AND PRECIOUS Exhibition Lectures, 2015

③⑮ 井手誠之輔, 中国・朝鮮の五百羅漢図像から見た羅漢寺石仏, 羅漢寺石仏国重要文化財指定記念シンポジウム, 2015

③⑯ 畑靖紀, 徽宗と義満 日本における皇帝コレクションの意味 , 特別展「台北 國立故宮博物院 神品至宝」開催記念国際シンポジウム「中国皇帝コレクションの意味 書画における復古と革新」, 2014

③⑰ 板倉聖哲, 梁楷「出山釈迦図」をめぐる諸問題, 浙江大学主催国際シンポジウム「宋画国際学術会議」, 2014

③⑱ 板倉聖哲, 足利將軍家所蔵の中国絵画 徽宗・梁楷・牧谿, 三井記念美術館「東山御物の美」展講演会, 2014

③⑲ 井手誠之輔, 南宋仏画と地域社会, 福岡市史研究会, 2014

④① 畑靖紀, 中国における文物の意義 皇帝たちが受け継いだ名画 , 特別展「台北 國立故宮博物院 神品至宝」記念講演会, 2014

④② 井手誠之輔, 韓国仏画における宋代絵画の受容 羅漢図を中心として , 東亜大学特別講演会, 2014

④③ 井手誠之輔, 時空の旅 大徳寺伝来五百羅漢図の場合 , 第15回北大・九大フロンティア・セミナー「文化を旅する グローバル化時代の人文学」, 2014

④④ 井手誠之輔, 宋元仏画にみる彼岸と此岸, 澄懷堂文庫美術館講演会, 2014

〔図書〕(計4件)

井手誠之輔, 徹底討論・大徳寺伝来五百羅漢図の作品誌 地域社会からグローバル世界へ , 2019, 529頁

板倉聖哲, 李公麟「五馬図」, 2014, 羽鳥書店, 84頁

井手誠之輔・朴亨國(共編), アジア仏教美術論集 東アジアVI(朝鮮半島), 中央公論美術出版, 2018, 584頁

奈良国立博物館・東京文化財研究所, 大徳寺伝来五百羅漢図, 思文閣出版, 2014,

〔産業財産権〕

出願状況（計 0 件）

取得状況（計 0 件）

〔その他〕

ホームページ等

<http://www2.lit.kyushu-u.ac.jp/~aesthe/rakan2018/index2.html>

6. 研究組織

(1) 研究分担者

板倉聖哲（ITAKURA MASAOKI）

東京大学・東洋文化研究所・教授

研究者番号：00242074

塚本磨充（TSUKAMOTO MAROMITUS）

東京大学・東洋文化研究所・准教授

研究者番号：00416265

北澤菜月（KITAZAWA NATSUKI）

独立行政法人国立文化財機構奈良国立博物館・その他部局等・研究員

研究者番号：10545700

増記隆介（MASUKI RYUSUKE）

神戸大学・人文学研究科・准教授

研究者番号：10723380

畑靖紀（HATA YASUNORI）

独立行政法人国立文化財機構九州国立博物館・学芸部文化財課・主任研究員

研究者番号：80302066

谷口耕生（TANIGUCHI KOSEI）

独立行政法人国立文化財機構奈良国立博物館・その他部局等・室長

研究者番号：80343002

(2) 研究協力者

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属されます。